

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター

The Japan Center for Michigan Universities

No. 53
2012 春

“JCMU国内留学”

今回のニュースレターでは当センターが新たに開始した英語プログラムであるJCMU国内留学を紹介します。

海外留学希望の日本人大学生に朗報！“JCMU国内留学”

『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』という本がベストセラーになっています。これはことばの修得のためには、イマージョン教育が最も効果的であることをとりあげています。イマージョン教育とは、修得しようとする言語の環境に浸りきって、いわば没入して言語を習うことを意味しています。日本人学生が海外留学する際には新学期の始まる9月より数ヶ月前に現地に到着し、現地の言語環境に浸って慣れているのがよいと言われているのもこのイマージョン教育効果を得るためです。しかし、現実には現地滞在費用なども考慮するとなかなか理想的にはいかないという面もあります。



実は、ミシガン日本センターは1989年創立当時からのこのイマージョン効果を意識して設立された日本校です。ただし、これまではミシガン州をはじめとする米国人学生に日本語環境を提供することが中心でした。しかし、当センターでは、年間約200名の米国人学生が来県し、JCMU寮には絶えず40名～50名程度の米国人学生が滞在する環境は十分にアメリカ・アイランドとしてのイマージョン効果を発揮できると考え、昨年2月、9月の各2週間、寮宿泊方式での英語集中講座、また今年2月下旬から3月末までの間にも同方式で2週間のTOEFL・TOEIC集中講座を開講し始めました。当センターではこの講座を“JCMU国内留学”と名付けています。海外に滞在する費用の半額あるいは1/3程度の費用で体験できることもこの制度の大きなメリットです。

2週間のうちに、日本の大学ならば2単位に相当する40時間、英語教育専門のネイティブ教官の集中講義を受けます。毎日宿題もでるので少なくとも毎日2時間程度の自己学習も必要です。また、宿泊中の米国人学生とのルームメイト体験をはじめ、JCMU学生が参加するウェルカムパーティ、自転車ツアー、映画鑑賞などの社会文化体験もプログラムに含まれています。

最近実施した2月および3月のTOEFL集中講座AコースおよびBコースの例では、6つの大学(滋賀大、滋賀県立大、同志社大、金沢大、奈良女子大、追手門学院大)からの推薦参加申込でいずれも締切日を待たずに定員一杯になっています。また、受講後のアンケート評価結果で、ほとんどの受講者がコース、教官への評価がいずれも90点以上(100点満点)であり、うち2割程度の受講者は100点満点との高評価

であったことは当センターにとって大変名誉なことでもあります。しかし、残念ながら、現時点ではルームメイト数の制約上、開講しても10名～12名程度しか受入ることができませんので、ご理解くださるようお願いいたします。

JCMU国内留学に参加するためには、所属する大学の国際センターもしくは指導教官の推薦書が必要ですのでご注意ください。授業を効果的に受けるためには、最低限英検2級、あるいは準1級程度の英語力を身

につけてから参加してくださることをお奨めします。当センターのレベルチェックもあります。

以下では前回のニュースレターに引き続き“身近なミシガン日本センター”の話題を紹介します。

「JCMU学生と一緒に親子ハイキング」を初開催

世界がますますグローバル化するなかにおいて、“親子で国際交流の



裾野を広げよう”との滋賀県国際協会の呼びかけで、2011年9月に「JCMU学生と一緒に親子ハイキング」が初めて開催されました。参加された一家族ごとにJCMU学生2名がペアになり、約10組で彦根城や彦根キャッスルロード

を英語と日本語で会話しながら廻りました。英語あるいは日本語オンリーというのではなく、互いに日本語と英語で教え合いながら一緒に行動し楽しむのがこのハイキングの良いところ。ハイキングコースの設定やハイキングに関連して出題されたクイズ作成は、滋賀大学教育学部学生の皆さんのボランティア協力のたまものでした。リラックスして、ごく自然に国際交流の裾野が広がっていくのは素晴らしいですね。さて、2012年秋のハイキング先はどこになるのでしょうか。

JCMU こども英語教室

こどもの音感3歳から10歳の間に発達すると言われています。日



本語の発音で使用する音の周波数は、ヨーロッパ言語とはほぼ近いのですが、英語や中国語の場合には、これを超える高音域と低音域ももっているのが特徴。音感の発達する時期に、自然に英語の音になれることを目的に始まったのが毎週土曜日午前で開催しているJCMUの“こども英語教室”です。この『こども英

語教室』には、子どもが大好きなJCMUの学生達がボランティア参加してくれています。子ども達にとってJCMUのお兄ちゃん、お姉ちゃんに出会うのがとても楽しみようです。また、英語の歌に合わせて一緒に踊るのもほほえましい光景です。

英会話入門—土曜モーニングコース

英語をやり直したい、英会話を始めたいと思っておられる方のための



コース、いわば英会話入門編が土曜日の午前が開講している土曜モーニングコースです。中学時代に習った英語知識を上手く活用すれば日常英会話は可能です。読み書きの基礎知識はあっても、日本人にとって苦手なのがスピーキングとリスニングの力。まずは思い切って英語を話すところから始めましょう。新しい英語

の世界が始まります。

2011びわ湖環境ビジネスメッセ体験記

2011年10月に開催されたびわ湖環境ビジネスメッセにJCMU学生が3日間で11人がボランティア参加しました。そのうちの一人であるミズーリー大学大学院生のマット・ベイカーさんから体験記が寄せられましたので紹介します。

2011年10月に私はJCMUの学生代表の一人として、滋賀県の環境ビジネスメッセのミシガン・ブースに参加しました。ブースには環境保全や効率的なエネルギーをめざすミシガン州の技術や政策が展示されており、同様の目的でブース展示されている多くの日本企業の方々と出会うことができました。もちろん、日本のビジネスマンとの接触は基本的には日本語です。会場に到着した時は神経質になっていました。私の日本語は初歩的なものだからです。しかし、何人もの来場者に説明を始めてみると、素直に忍耐強く聞いてもらえて嬉しく思いました。たどたどしい説明にも寛容で、ブース展示内容に純粋に関心をもってくれました。おかげで、日本のビジネスマンに日本語で説明しなければならないという私の恐怖心はずいぶんやわらぎ、日本語で話す良いトレーニング機会となりました。

ミシガン・ブースでのスタッフ対応をした後に、会場内を視察する時間が与えられ、数え切れない程のブース展示と技術をみることができました。滋賀県はびわ湖のホームであり、その環境保全に取り組んだ歴史をもっています。日本全国の環境ビジネス企業が参加していて、中には国際的な企業もあり、環境浄化の技術や紙のリサイクル技術から水質保全技術、そして実にエネルギー効率の良い機械まで展示されていました。私は展示されている技術に感動しました。それは多くの日本企業が環境保全への関心が高く、それぞれのユニークな方法で解決のために取り組んでいることを示していました。

ふりかえてみると、私は参加できたことを嬉しく思い、滋賀県はこの環境ビジネスメッセを開催するという素晴らしい仕事をしている。そして、このメッセが単に将来も発展するというだけでなく、より良い技術が開発され、環境保全意識へのより良い評価がなされ、より多くの人に広まると私は信じます。

マット・ベイカー

(写真はミシガン州経済開発公団ブースで来場者に説明しているマット・ベイカー氏)



(以下体験記原文)

In October, I had the privilege of attending the 2011 Shiga Environmental Exposition as a student representative of JCMU, and by extension, the state of Michigan. While staffing the Michigan booth, which highlighted various technology and policy initiatives being taken by the state to promote environmental conservation and energy efficiency, I was able to meet numerous representatives from Japanese companies promoting similar goals. Of course, my interactions with them were primarily in Japanese. I was nervous when I arrived - after all, my Japanese skills are rudimentary, at best - but when I began to speak with the various Japanese attendees, I was pleased at how patient and open they were with me. They were very accommodating, and displayed genuine interest in the Michigan booth. They helped me to practice speaking in Japanese, and helped me to overcome some of my trepidation at interacting with Japanese people in their native language.

After staffing the booth for a while, I was permitted to walk around the expo at my relative leisure, and see the myriad technologies on display. Shiga Prefecture is home to Lake Biwa, and has a history of environmental conscientiousness associated with preserving this historic lake. Companies from all over Japan, and indeed several international companies, were displaying all sorts of environmental and clean energy technologies, ranging from paper recycling, to water conservation, to machines that showed remarkable energy efficiency. I was really impressed by all the technology on display - it shows that many Japanese companies are highly conscious of environmental preservation, and endeavoring to contribute to this cause in their own unique ways.

Overall, I was very pleased to be able to attend the expo. Shiga Prefecture is doing a wonderful job hosting this exposition, and I believe that the expo will only continue to grow in the future, as better technologies are developed and environmental consciousness becomes further valued by the population at large.

-Matthew Baker

第77回 公開講座

「日本人のための効果的な英語学習法」
Boyce教官による平易な英語での講演 (JCMUにて)



会場一杯の参加者で大盛況でした。教官からは「英語の上達は直線ではなく、波打つ曲線のように伸びる。したがって伸びていないと感じる時でも、学習を継続することが大切」と語りました。また、講演以外に JCMU 講座受講体験者で TOEIC900 点級にまで伸ばされた 2 名の方の体験発表もありました。

(2011年7月)

第78回 公開講座

「エジプト旅行体験談」
Eric教官による平易な英語での講演 (JCMUにて)



教官の旅行談シリーズは毎回好評。身振り手振りを加えて自らの失敗談も語り、臨場感のある講演会となりました。

(2011年9月)



第79回 公開講座

「日本人には見えていない英語の世界」
David准教官による平易な英語での講演 (JCMUにて)



英語語彙の多くはラテン語に由来しています。接頭語と接尾語を勉強すれば語源がわかり、見えていなかった英語の世界が見えてきます。参加者と一緒に具体事例をとりあげての講演でした。

(2011年9月)

第80回 公開講座

「効果的な英語学習方法」
Matthew准教官による平易な英語講演 (ピアザ淡海にて)



県南部の皆さんに JCMU の活動を知っていただくために、今回は大津で開催しました。参加者からは英語学習の悩みに関して種々の質問がありました。教官からは「言語学習の三要素である“モチベーション”“機会”“心的態度”を個人レベルで点検し、改善していくこと」「自分の興味のある分野から着手するのが効果的」などのアドバイスがありました。

(2011年11月)

第81回 公開講座

「カナダへの旅」
Eric教官による平易な英語での講演 (JCMUにて)



今回は教官自身が留学していたことのあるカナダ。日常生活、オーロラ体験、海岸風景、ロッキー山脈そしてカナダの寒さとユーモアたっぷりの講演に会場内は思わず笑顔で一杯。

(2011年12月)

第82・83回 公開講座

「子どもと大人も楽しめる絵本」
David准教官による平易な英語での講演
(栗東ウイングプラザ・JCMUにて)



世界三大絵本賞のひとつ、『コールドコット賞』を受賞した作品が会場に並べられ、紹介されました。うち「Crow Boy」(やしま たろう) はアメリカでは広く知られているのに、日本ではそれほど知られていないのは残念とのコメント。来場者からも持参された絵本の紹介がありました。心に残る絵本の世界はパワフルです。

(2011年12月)

第84回 公開講座

「My Challenge in Japan and USA」

滋賀県在住者お二人(宮村佐衣子氏、川口久隆氏)と、ミシガン日本センターで日本語・日本文化/社会を学びつつ、富田人形を研究しているJCMU米国人学生 ミズーリー大学大学院生マット・ベイカー(Matthew Baker)氏と、今年の1月にJCMU新所長として滋賀県に赴任したベン・マクラケン(Benjamin McCracken)氏の計4人に登壇いただき、その貴重な体験、さらに日本および米国でどのように生かそうとしているのかなど英語で体験発表していただきました。



宮村佐衣子氏



川口久隆氏



マット・ベイカー氏



ベン・マクラケン氏

普段着のおつきあい！

ホストファミリー

ホームステイを受け入れてくださったホストファミリーの皆様ありがとうございました。

文化や言語などが異なっても、共に時間を過ごしてみると心が通いあうから不思議です。

春・夏・秋・冬と四半期ごとに50名程度の米国人学生が来県しますので、ホストファミリーを何度か経験していただいている家庭の方は、米国の友人・知人のネットワークが徐々に広がっていると思います。

ホームステイを経験したJCMU学生のその後はどうでしょうか。一般的には帰国し、大学や大学院を卒業し、就職後、家庭を持ちますが、なかには、家族とともに日本を再訪する人もいます。その際、日本のホストファミリーを訪問することもあるでしょう。日本が大好きだからこそJCMUに学びにきたのですから、おおいにありうることです。これは、日米のファミリー同志の草の根交流です。滋賀とミシガンとの草の根交流の姿のひとつがここにあります。

ホストファミリー体験談やアンケート結果をHPでご覧ください。普段着のお付き合いこそが素晴らしい！



震災の影響について

東日本大震災被災者の皆様には、一日も早い復興をとげられますことを願っております。

当センターにおきましても、震災直後、米国国務省の日本訪問延長勧告が出されたことの影響で、当センターに昨年1月より来県していた春学期学生が心ならずも予定を切り上げ授業を早期修了する決定がなされました。そのために昨年3月下旬に学生全員が帰国する結果となり、JCMU活動を継続実施できるのか懸念される事態となりました。

しかし、まもなく情勢が正確に理解され、昨年5月のメイプログラム、夏学期には半数レベルに戻り、そして秋学期にはほぼ例年並みの学生が来県し、現在では通年あるいはそれ以上の学生来県数になっています。



2011年10月28日 JCMUハロウィーンパーティーの様子

ホストファミリー募集

当センターでは、アメリカ・ミシガン州を始め全米から来日している留学生のホストファミリーを募集しています。1カ月以上の長期ホームステイのほか、週末だけの短期ホームステイもあります。まずはバンクに登録していただき、そのあとは都合が合うときに学生の受け入れをお願いしています。1人でも多くの留学生がホームステイを体験できるようご協力いただければ幸いです。

ミシガン州立大学連合日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435-86

TEL 0749-26-3400 FAX 0749-24-9356

URL <http://www.jcmu.net>

■編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所